

コミュニケーション能力を育むことを目指した教科学習の系統性

音楽科 単元「リコーダーに親しもう」

【大竹市立玖波小学校第3学年】

時期	道徳	教科等	総合的な学習の時間	特別活動
6月		<p>教科「国語」 単元「自分を紹介するスピーチをしよう」 ※ねらい：自分の考えが分かるように筋道を立てて、適切な言葉遣いで話すこと。 【ア】：自分のよいところを認める。</p>		
7月	<p>単元「あいさつをする」礼儀2(1) ※ねらい：相手のことを思いやり、親切にする。 【ア】：あいさつや返事をする。自分の生活を支えている人に感謝する。</p>	<p>教科「社会」 単元「わたしのまち みんなのまち」 ※ねらい：身近な地域を調査して、仕事に携わっている人の工夫を考える。【ア、イ】：友達と協力して、学習や活動に取り組む。</p>	<p>単元「お気に入りの場所見つけ！」 ※ねらい：地元の玖波の自分の好きな場所を見つけて、好きな理由を発表する。【ア、イ、エ】：自分の意見や気持ちを分かりやすく伝える。</p>	
8月 9月		<p>教科「音楽」 単元「リコーダーに親しもう」 ※ねらい：リコーダーを正しい演奏法で演奏することができる。 【ア】：自分の考えをわかりやすく他者に伝え、他者からの考えを聞いて理解する。</p>	<p>単元「ときめき 町発見！」 ※ねらい：地元の漁港や商店などで調べたことを紹介する。 【ア、イ】：自分の調べたことなどをつかきやすく伝える。</p>	<p>題材名「ゆうあいの里でふれあいを」 ※ねらい：音楽の学習成果としてリコーダー演奏と歌を歌って、高齢者と触れ合う。 【ア】：あいさつや返事をする。友達と協力して、学習や活動に取り組む。</p>
		<p>教科「国語」 単元「もうどう犬」 ※ねらい：盲導犬と暮らしている視覚障害者から聞いた話をまとめる。 【ア、イ】：友達と協力して、学習や活動に取り組む。</p>	<p>単元「いろいろな伝え方を知る」 ※ねらい：盲導犬と暮らしている視覚障害者との交流を通して、手話や盲導犬について理解する。 【ア、エ】：自分の生活を支えている人の存在に気づき、感謝する。</p>	

図中の単元をつなぐ太い直線は、本単元で身に付けさせたいコミュニケーション能力の系統性を示しています。

※図中の【ア、イ、ウ、エ】はそれぞれ【ア】人間関係形成能力、【イ】情報活用能力、【ウ】将来設計能力、【エ】意思決定能力を示しています。

事前・事後の指導における系統性をもった教科学習の授業実践例(小学校)

コミュニケーション能力育成の視点を取り入れた授業

音楽科 単元「リコーダーに親しもう」

【大竹市立玖波小学校第3学年】

キャリア教育の視点に立った指導の工夫

- この学習の後に、福祉施設の訪問を行い、異年齢コミュニケーションを図る。本教科を通して、自己と他者の違いを認め、豊かな人間関係を築く力をさらに高める。
- 本時では、コミュニケーション能力を育成するため、6年生をゲストティーチャーに迎え、リコーダーの練習を通して、自分の気づきや考えを分かりやすく伝える指導を工夫している。

1 学年 第3学年

2 科目名・題材名 音楽科 「リコーダーに親しもう」

3 題材の目標

- リコーダーの音色や響きを感じ取り、音の出し方を工夫することができる。
- 正しい指使いとタンギングで簡単な曲を演奏したり、他の楽器と組み合わせて合奏したりすることができる。
- 自分の考えを分かりやすく他者に伝え、他者からの考えを聞いて理解する。

【コミュニケーション能力】

ゴシック体の部分は、
キャリア教育の視点
を示しています。

4 指導と評価の計画 (全11時間)

次	学習内容 (時数)	評 価					評価方法
		関	感	表	鑑	評価規準 【キャリア教育の視点】	
1	リコーダーに関心を持ち、美しい音色を味わって聴き、基本的な技能を知る。(1)	○				・リコーダーの音色に関心を持ち、進んで聴いたり演奏したりしている。	観察法(行動)
2	運指を覚え、タンギングに気をつけて演奏する。(1)			○		・シ、ラ、ソの運指に慣れ、息の使い方に気をつけて音の出し方を工夫している。	観察法(行動)
11	楽器の音の重なりを感じながら合奏する。(1)			○		・基本的な奏法に気をつけながら、音の重なりを感じて演奏している。 ・奏法などの疑問について聞きたいことを6年生に伝え、アドバイスを求めている。 【コミュニケーション能力】	観察法(行動)

5 本時の目標

- 基本的な奏法に気をつけて、響きを感じ取りながら演奏することができる。
- 自分の考えや気付きを分かりやすく6年生に伝え、アドバイスを聞いて的確に理解する。
【コミュニケーション能力】

6 本時の指導過程（2時間連続による指導過程の授業である。）

過程	学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法） 【キャリア教育の視点】
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習曲を吹く 「地平線」 ○ 本時の目当てを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 姿勢、息の強さ、タンギングなどのリコーダーの基本的な奏法を意識させる。 	
<p>ゲストティチャー（6年生）と一緒に合奏し、音の響きを楽しもう</p>			
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6年生の合奏を聴いて感想を発表する。 ○ 6年生にリコーダーの演奏のコツを聞き自分の演奏に生かす。 ○ 全員で合奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ リコーダーだけの合奏と、他の楽器が加わった合奏の違いに気付かせる。 ・ 姿勢、タンギング、息の使い方などについて、6年生のアドバイスを基に工夫するよう指導する。 ・ 6年生は3年生の上達した部分を評価するよう指導する。 ・ 友達の音も聞きながら合奏するよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 楽器の音の重なりを味わいながら聴いている。（観察法） ○ 自分の考えや気付きを分かりやすく6年生に伝え、アドバイスを聞いて的確に理解する。 【コミュニケーション能力】 （観察法） ○ 楽器の音の重なりについて気をつけながら演奏している。（観察法）
まとめ	6 学習のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時では、6年生からリコーダーの演奏のコツを教えてもらい、このコツを生かして響きを感じとりながら合奏したことを確認する。 	